

科目名	成人看護学概論		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 成人期にある対象の特徴と健康問題について理解を深める。</p> <p>目標: 1 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2 成人の生活に起因する健康問題の特徴と健康の保持・増進・疾病予防に向けた援助を理解できる。 3 成人期の対象に関わる際の有用な概念が理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方 法
1 成人期にある対象の理解	2	1 成人各期の特徴と発達課題 (1) 青年期の身体的、心理・社会的特徴と発達課題 (2) 壮年期の身体的、心理・社会的特徴と発達課題 (3) 向老期の身体的、心理・社会的特徴と発達課題 2 成人各期の健康問題を示す指標 (1) 有訴率 (2) 受療率 (3) 死亡率 3 成人の生活 (1) 成人の生活と環境 (2) 成人各期の生活の特徴		講義
2 成人期に見られる健康問題	6	1 ヘルスプロモーションと看護 (1) ヘルスプロモーションの概念 (2) ヘルスプロモーションの目標 (3) ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 2 健康をおびやかす要因と看護 (1) 健康バランスと健康バランスに影響を及ぼす要因 (2) 生活行動がもたらす健康問題とその予防 ア 就業・労働形態の変化がもたらす健康問題 イ 飲酒がもたらす健康問題 ウ 喫煙と健康問題 エ 身体活動量の低下と運動不足 オ 肥満 カ 生活環境衛生と健康 キ 感染症 ク 引きこもり、うつ病、ネット依存 3 成人の保健医療対策 (1) 健康増進対策 ア 健康増進法 イ 健康日本 21 (2) 生活習慣病対策 ア 特定健康診査 イ 特定健康指導 (3) 心の健康対策 (自殺予防対策) ア 成人の生活ストレス イ ストレス関連疾患の予防と対応 (4) がん対策		講義 GW

3 成人看護 に有用な概念 と基本的アプ ローチ	6	1 成人教育理論 (1) おとなの学びの特徴 (2) 成人教育学の概念(アンドラゴジーモデル) (3) 自己効力感 ア 自己効力とは イ 自己効力を高める4つの情報源 (4) 行動変容を促すアプローチ ア 行動変容とは イ トランスセオレティカルモデル ウ エンパワメント エ 強み 2 障害受容がある人とその生活を支援する看護 (1) 障害の受容過程 (2) 障害受容への影響要因 (3) 受傷後の障害に対する心理反応への援助 3 病みの軌跡 (1) 病みの軌跡とは (2) 病みの軌跡という考え方 (3) 病みの軌跡の看護への適用	講義
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 成人看護学① 成人看護学概論 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・本科目は、准看護師課程で学習している「成人看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。(特に成人看護の役割や成人期の対象の特徴等は、授業では詳しく説明しないので、復習や自己学習のうえ授業に臨むこと。) ・積極的な学習姿勢と、主体的な授業への参加姿勢を望む。 ・GW をとおして、主体的に考える授業とする。GWには自己学習のうえ、積極的な参加姿勢を望む。		

科目名	成人看護学方法論Ⅰ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 機能障害のある成人の特徴と、疾患の症状・治療に応じた看護の理解を深める。</p> <p>目標: 1 呼吸機能障害のある成人の特徴と看護を理解できる。 2 循環機能障害のある成人の特徴と看護を理解できる。 3 消化・排泄機能障害のある成人の特徴と看護を理解できる。 4 運動機能に障害のある成人の特徴と看護を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 呼吸機能に障害のある成人の看護	4	1 呼吸機能に障害のある成人の身体的・心理的・社会的特徴 2 呼吸機能障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護 【自然気胸】 (1) 外科的療法(肺部分切除術)と術後合併症予防 (2) 胸腔ドレナージ中のドレーン管理 【肺がん】 (1) 手術療法と看護 (2) 放射線療法と看護 (3) がん薬物療法(化学療法)と看護		講義
2 循環機能に障害のある成人の看護	8	1 循環機能に障害のある成人の身体的・心理的・社会的特徴 2 循環機能障害を起こす主要疾患の症状・治療に伴う看護 【虚血性心疾患】 (1) 検査・治療に伴う看護 ア 心臓カテーテル・血管造影時の看護 イ 経皮的冠動脈形成術(PCI):血栓溶解・血栓除去時の看護 (2) 経過に伴う看護 ア 心臓リハビリテーション イ 生活指導 【不整脈】 (1) 薬物療法の看護 (2) ペースメーカーや植え込み式除細動器装着時の看護 (3) 生活指導 【血圧異常(高血圧)】 (1) 食事指導 (2) 日常生活上の指導 (3) 服薬指導		講義
3 消化・排泄機能に障害のある成人の看護	12 (6)	1 消化・排泄機能に障害のある成人の身体的・心理的・社会的特徴 2 消化・排泄機能に障害を起こす主要疾患の症状・治療に伴う看護 【胃がん】 (1) 症状に伴う看護:吐血・下血、下痢・便秘、食欲不振 (2) 外科的治療に伴う看護 ア 幽門側胃切除術後の看護 イ 胃全摘術後の看護		講義

		<p>【大腸がん】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:下血</p> <p>(2) 外科的治療に伴う看護</p> <p>ア 腹会陰式直腸切断術後の看護</p> <p>イ 人工肛門造設術後の看護:人工肛門のケア</p> <p>【膵臓がん】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:心窩部痛、背部痛、黄疸</p> <p>(2) 外科的治療に伴う看護</p> <p>ア 膵頭十二指腸切除術後の看護</p> <p>イ 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術後の看護</p> <p>【肝臓がん】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:全身倦怠感、食欲不振、腹痛</p> <p>(2) 外科的治療に伴う看護</p> <p>ア 肝切除術後の看護</p> <p>イ 経皮的ラジオ波焼灼療法時の看護</p> <p>ウ 経カテーテル動脈塞栓療法時の看護</p>	講義
	(6)	<p>【膵炎】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:上腹部痛、</p> <p>(2) 内科的治療に伴う看護</p> <p>ア 絶食・輸液療法</p> <p>イ 生活指導</p> <p>【肝炎】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:腹水・黄疸</p> <p>(2) 内科的治療に伴う看護</p> <p>ア 安静療法(肝庇護)</p> <p>イ 生活指導</p> <p>【肝硬変】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:肝性脳症、門脈圧亢進症状</p> <p>(2) 内科的治療に伴う看護</p> <p>ア 肝生検時の看護</p> <p>イ 肝動脈塞栓術時の看護</p> <p>ウ 生活指導</p> <p>【潰瘍性大腸炎・クローン病】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:腹痛、血便</p> <p>(2) 内科的治療に伴う看護</p> <p>ア 食事療法</p> <p>イ 生活指導</p>	講義
4 運動機能に障害のある成人の看護	5	<p>1 運動機能に障害のある成人の身体・心理・社会的特徴</p> <p>2 運動機能に障害を起こす主な疾患の症状・治療に伴う看護</p> <p>【脊髄損傷】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:神経麻痺と循環障害</p> <p>(2) 治療に伴う看護:良肢位の保持と関節可動域訓練</p> <p>(3) 障害の受容にかかわる看護生活の再構築と看護</p> <p>【椎間板ヘルニア】</p> <p>(1) 症状・治療に伴う看護:疼痛</p> <p>(2) 内科的治療に伴う看護:</p> <p>牽引療法(クラッチフィールド・ハローベスト)</p>	講義

		(3) 外科的治療に伴う看護:椎弓切除術 (4) 生活指導	
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ 運動器 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、准看護師課程で学習している「成人看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。 ・本科目は、成人看護学実習に必須の知識・技術のため、積極的な学習姿勢を望む。 ・もともとの臓器の形態機能(解剖生理学Ⅰ・Ⅱ)及び疾患による形態・機能の変化や治療(疾病治療論Ⅰ・Ⅱ)の理解が前提になる看護の学習科目である。そのため、既修学習内容を必ず、予習のうえ、授業に臨むこと。 ・また、解剖生理学や疾病治療論Ⅰ・Ⅱの当該科目にかかるテキストや授業資料等は持参のうえ、授業に臨むこと。 ・本科目は、実習や国家試験にも直結する内容を多く含むため、積極的が学習姿勢を望む。 ・複数の講師が担当するので、出欠席は自己管理のうえ、体調管理に努め、欠席しないように授業に臨むこと。 ・授業後は復習しておくこと。 		

科目名	成人看護学方法論Ⅱ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 機能障害のある成人の特徴と、疾患の症状・治療に応じた看護の理解を深める。</p> <p>目標: 1 代謝機能に障害のある成人の特徴と看護を理解できる。 2 内分泌機能障害のある成人の特徴と看護を理解できる。 3 腎機能障害のある成人の特徴と看護を理解できる。 4 女性生殖機能に障害のある成人の特徴と看護を理解できる。 5 血液・造血機能障害のある成人の特徴と看護を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 代謝機能に障害のある成人の看護	6	1 代謝機能に障害のある成人の身体的・心理的・社会的特徴 2 代謝機能に障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護 【糖尿病】 (1) 高血糖・低血糖時の看護 (2) 糖負荷試験(OGTT)検査時の看護 (3) 日常生活指導 ア 慢性合併症予防 フットケアの指導 イ 血糖自己測定(SMBG)の指導 ウ インスリン補充療法(インスリン自己注射含む)とシックデイへの対処法		講義 演習
2 内分泌機能に障害のある成人の看護	4	1 内分泌機能に障害のある成人の身体的・心理的・社会的特徴 2 内分泌機能に障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護 【甲状腺機能亢進症】【甲状腺機能低下症】 (1) 内科的治療に伴う看護 ア 薬物療法:抗甲状腺薬 (2) 外科的治療に伴う看護 ア 甲状腺切除術時の看護 イ 甲状腺クリーゼの予防 (3) 生活指導		講義
3 腎機能に障害のある成人の看護	6	1 腎機能に障害のある成人の身体的・心理的・社会的特徴 2 腎機能に障害を起こす疾患の看護 【慢性腎不全】 (1) 日常生活上の看護 ア 食事療法 イ 薬物療法 (2) 透析療法の看護 ア 血液透析と腹膜透析(CAPD) イ 透析時の看護 ウ シヤント管理 エ 生活指導 (3) 外科的療法に伴う看護:腎移植		講義

4 女性生殖機能に障害のある成人の看護	6 (4)	<p>1 女性生殖機能に障害のある成人の身体的・心理的・社会的特徴</p> <p>2 女性生殖機能に障害を起こす疾患の治療に伴う看護</p> <p>【子宮がん】【卵巣がん】</p> <p>(1) 外科的療法に伴う看護</p> <p>ア 広汎性子宮全摘出術の看護 妊孕性喪失やホルモン欠落症状への対応</p> <p>イ 円錐切除手術の看護 妊孕性低下への精神的支援</p> <p>(2) がん薬物療法(化学療法)に伴う看護</p> <p>(3) 放射線療法に伴う看護</p> <p>(4) 生活指導(性生活含む)</p> <p>(5) ボディイメージの変化に伴う心理的支援</p>	講義
	(2)	<p>【乳がん】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:乳房の腫瘍(自己触診法)</p> <p>(2) 検査に伴う看護</p> <p>ア マンモグラフィー</p> <p>イ 超音波検査</p> <p>(3) 外科的治療に伴う看護</p> <p>ア 乳房温存手術時の看護</p> <p>イ 乳房全摘手術 リンパマッサージ・生活指導</p> <p>(4) 内科的治療に伴う看護</p> <p>ア ホルモン療法時の看護</p> <p>イ 化学療法時の看護</p> <p>ウ 放射線療法時の看護</p> <p>(5) ボディイメージの変化に伴う受容への援助</p>	講義
5 血液・造血機能に障害のある成人の看護	7	<p>1 血液・造血機能に障害のある成人の身体・心理・社会的特徴</p> <p>2 血液・造血機能障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護</p> <p>【白血病】【悪性リンパ腫】</p> <p>(1) 症状に伴う看護:貧血、出血傾向、リンパ節腫脹</p> <p>(2) 検査や治療に伴う看護</p> <p>ア 骨髄穿刺時の看護</p> <p>イ 化学療法時の看護</p> <p>(ア) 化学療法の有害事象</p> <p>(イ) 有害事象に対する看護:感染予防・出血傾向・嘔吐・脱毛 等</p> <p>(ウ) 精神的支援</p> <p>ウ 造血幹細胞移植時の看護 移植片対宿主病</p> <p>エ 輸血療法時の看護 輸血の副作用</p> <p>オ 放射線療法時の看護</p>	講義
試験	1		
評価方法	筆記試験		

<p>必須資料 (テキスト)</p>	<p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑨ 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器 (医学書院)</p>
<p>参考資料</p>	<p>・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。</p>
<p>履修上の 留意点</p>	<p>・本科目は、准看護師課程で学習している「成人看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。 ・本科目は、成人看護学実習に必須の知識・技術のため、積極的な学習姿勢を望む。 ・もともとの臓器の形態機能(解剖生理学Ⅰ・Ⅱ)及び疾患による形態・機能の変化や治療(疾病治療論Ⅰ・Ⅱ)の理解が前提になる看護の学習科目である。そのため、既修学習内容を必ず、予習のうえ、授業に臨むこと。 ・また、解剖生理学や疾病治療論Ⅰ・Ⅱの当該科目にかかるテキストや授業資料等は持参のうえ、授業に臨むこと。 ・本科目は、実習や国家試験にも直結する内容を多く含むため、積極的が学習姿勢を望む。 ・複数の講師が担当するので、出欠席は自己管理のうえ、体調管理に努め、欠席しないように授業に臨むこと。 ・授業後は復習しておくこと。</p>